

保険業界に特化したコンサル提供

既成概念を超えるサービスを

ウイリス・タワーズワトソン保険コンサルティング&テクノロジー部門
日本での開業から20周年

ウイリス・タワーズワトソンの保険業界向けコンサルティング・サービス部門は、2018年に日本での事務所開設20周年を迎える。17年10月には部門名称を、「リスクコンサルティング&ソフトウエア部門」から「保険コンサルティング&テクノロジー部門」へと改称。保険業界に特化したコンサルティングの推進に加えて、従来の財務報告やリスク管理のためのソフトウエア・サービスの枠を超えた、テクノロジー全般に關連したサービスの提供に向けて強いコミットメントを示した。1月に同部門の責任者に就任した田中千晶氏に、同社の20年のあゆみと今後の展開について聞いた。

（現ウイリス・タワーズワトソンの保険コンサルティング&テクノロジー部門）の東京事務所の設立に参加し、今年で20年目を迎えた。

ビスを提供している。開所から2003年くらいまでは生損保の破綻や合併・買収・再編などに関連して、保険会社の経済価値評価に数多く携わっ

—現在の業務は。

田中 この20年の間に 保険会社のエンベディッド・バリュー（EV）の導入・開示につながっている。また、最近も日本の保険会社の海外進出を目的としたアウトバウンドのM&Aを支援している。

——日本の保険会社の
EV開示で貴社が果たした役割とは。

化しているが、生保会社が日本の会計基準では表せない経済価値を評価・開示する方法としてEVを導入したのは03年ごろのこと。EVの評価方法にはさまざまなものがあるが、近年は市場整合的な経済価値ベースの方法が主流であり、当社は日本の生保会社のEV計算・開示を支援すること

で、昨今はリスク管理の領域にも広がってきた経済価値ベース評価の考え方の定着に貢献してきたと自負している。

—— 損保分野での事業展開は。

田中 07年から、損保会社や少額短期保険業者より外部アクチュアリーとして保険計理人業務を受託している。法令に定められた保険計理人の職務を全うするだけではな

と自負している。

——損保分野での事業展開は。

業務分野は。

田中 リスク管理も開
所以来の主要業務だが、
12年ごろから、経済価値
ベースのリスク管理の観
点からERM導入に関連
したプロジェクトが増加
している。特に大手保険
会社は法令の要請を超え
たリスク管理の枠組みを
構築しており、当社も多
くの会社を支援してい
る。最近では、20年来の
検討を経て17年に基準が
公表された保険契約の国
際財務報告基準であるI
FRS第17号の導入に関
する依頼も多い。当社は
導入までのアプローチの
検討や影響度分析、シス
テム構築を行っており、
すでにシステムテストの
段階に入っている会社も
ある。

——貴社の強みは。

田中 保険会社出身の

—貴社の強みは。

検討や影響度分析、システム構築を行っており、すでにシステムテストの段階に入っている会社もある。

双方を修正・融合し、最適なソリューションを提供することが当社の役割だと感じている。保険会社の財務諸表は一般事業会社とは大きく異なる。その特殊なデータを読み解き、経営に役立つ情報を提供することが当社のコンサルタントの仕事だ。

ガバナンス対応などのため、エンタープライズ型ソリューション、クラウドによるサービスやSaaS（必要に応じたソフトウェアの利用サービス）の提供も始めている。

——現在特に注力している業務は。

田中 昨今の世界的な

——現在特に注力している業務は。

田中 消費者ニーズの多様化に対応するための、消費者のリスク特性や消費者動向分析も今後の成長が期待できる分野だ。これらはそもそもアクチュアリーの主要業務だが、海外に比べて日本での導入は限定的だ。ビッグデータやAIの活用支援も強化していきたい

○

—現在の課題は。

田中 アクチュアリー
は「計算屋」としてその

対して理解いただけるよう情報発信を進めていきたい。

——保険業界に向けてコメントを。

田中 目太

——これまでの経歴について。

田中 雇用機会均等法施行年に興亜火災海上保険会社（現損保ジャパン日本興亜）に入社した。法学部出身だったが、配属された商品開発部で上

司にアクチュアリー資格の取得を勧められ、受験。1992年に、損保で初の女性の正会員（同時に3人が合格）となった。その後、生保会社の立ち上げを経験し、98年、ティリングハスト

し、2003年からは損保部門の責任者を務めながら10年にわたって生損保の両方を担当。直近の5年間は損保を中心にコンサルティング業務を提供してきた。現在は部門全体の責任者として、こ

田中 生命保険会社のE・V開示支援は当社にとってコア業務の一つに位置付けられる。17年3月期にE・Vを開示した16社のうち当社は13社の開示を支援している。現在ではE・Vという言葉が一般

く、保険業界に関する知見を基に事業運営全般に関わる支援を実施している。また、IBNR備金評価について、手法の導入や定着を支援している。

——近年拡大している

アクチュアリーが数多く在籍しているため、日本の実務を熟知している点は大きな強みだ。またグローバルにコンサルティング業務を展開しているため、海外の実務を確認した上で、必要に応じて

ともと当社のコンサルタ
ントと保険会社の数理担
当者がパソコン上で利用
するアプリケーションとし
て開発されてきた。近
年では、保険会社の要望
の多様化、大容量のデー
タ処理、高速計算処理、

入を検討する企業は増加すると見込んでいる。そうした企業を支援するため、コンサルティングとテクノロジを融合した最善のソリューションを用意している。

——この他には。

ワーズワトソンの他部門との連携も視野に入れて、当社が一般に考えられているアクチュアリー
の守備範囲の枠を超えた保険コンサルティングを提供していることを、日本の保険業界の皆さまに

知見を生かし、日本の保険会社単体だけでなくグループ全体での価値評価やリスク管理等、保険会社の経営課題解決を積極的にサポートしていくので、ぜひ気軽に相談してほしい。



田中氏

田中 1998年当時
の人員は5人だったが、
現在は東京事務所に30人
が在籍している。また、
案件に応じて海外スタッ
フとも協力しながらサー

サービスを提供することが使命だと考えている。

—— 20年間貴社が果たしてきた役割とは。

田中 1998年当時